

経済財政諮問会議

持続的成長を実現する市場経済システムの構築に向けて

第一回 目指すべき市場経済システムに関する専門調査会

問題意識等の提示

平成25年4月23日

住友精密工業株式会社

神永 晋

経 歴

神永 晋(かみなが すすむ)

- 1969年 東京大学工学部機械工学科卒業
住友精密工業株式会社入社
- 1981年 ドイツ・デュッセルドルフ欧州事務所長
- 1987年 帰国後、新規事業開発室長
- 1995年 英国子会社代表取締役
- 1999年 帰国後、支配人
- 2000年 取締役
- 2002年 常務取締役
- 2004年 代表取締役社長
- 2012年 相談役

住友精密工業 事業概要

航空宇宙

プロペラ・降着システム・熱管理システム

エネルギー

LNG気化装置・プラント用熱交換器・高速車両用素子冷却器

環境保護

水処理システム・パルプ漂白システム・難分解性物質処理システム

マイクロ・ナノ

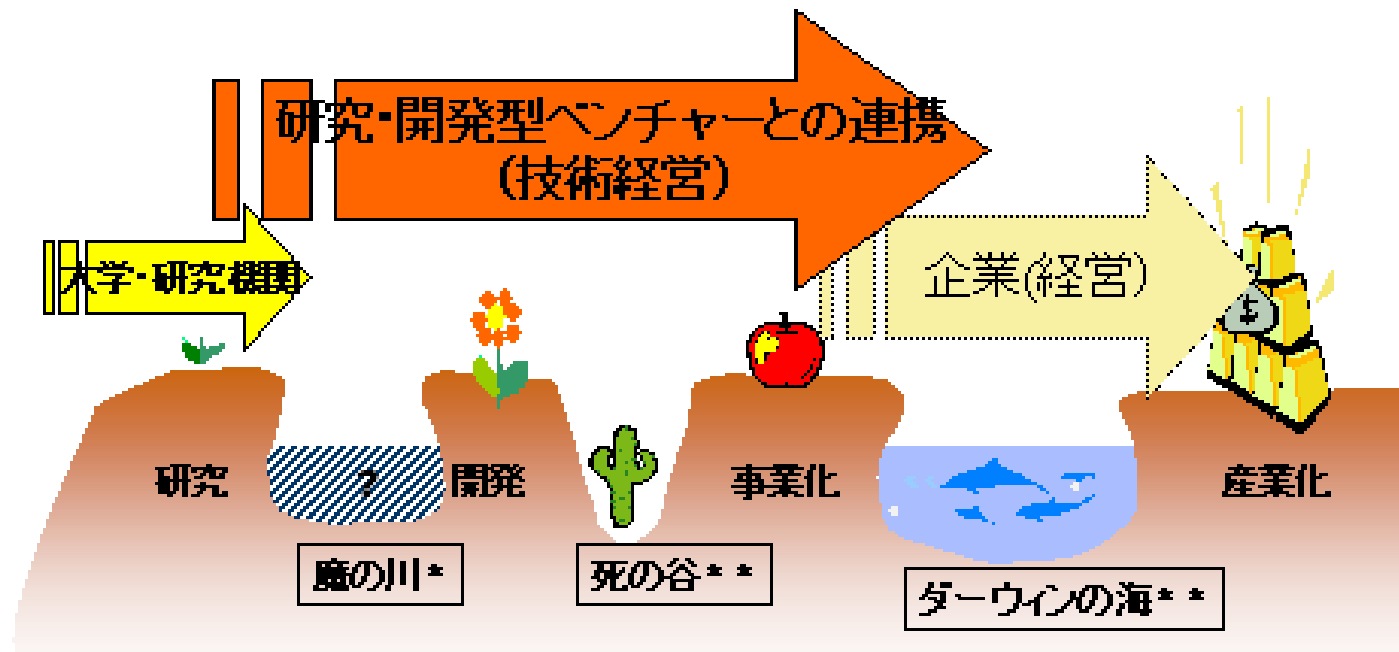
MEMS (Micro Electro Mechanical Systems 微小電気機械システム)

将来的に成長する分野で、
中長期的な事業戦略に基づき、
特徴ある独自技術の研究開発への先行投資により
グローバル・ニッチ・トップを目指す事業体

航空機産業における中長期的取り組みの必要性

1. 耐用年数が長い商品のため、市場はサイクリックに変動し景気に敏感に反応する。一般に、航空機の発注はGDPとの相関が強く、経済成長率の低い時は、減産体制の維持が、一方、経済成長率の高い時は増産体制の構築が必要となる。
2. 一旦受注した場合、20年以上に渡って仕事量が確保できる一方、20年以上に渡って供給義務を負う。
3. 当初の数年間は研究開発投資が先行、その後の数年間で製品化、この時点でも投資回収はできないまま市場に投入、その後の納入数増加に伴い補用品・保守整備事業も含めてようやく投資回収。
4. 人命を預かる航空機産業では、品質の維持向上による『飛行安全』の確保が絶対条件であるがゆえに、確実なる製造工程と品質管理システムの構築ならびに保守整備網構築が必須。

“開発”⇒“経営戦略”⇒“新市場の創成”



(出所: 出川 通、SFC Open Research Forum 2004)

新しいしくみの必要性

将来に向けての社会の要請に、独自の技術により貢献することを目的として、中長期的な研究開発投資を基盤とした事業開発・企業経営に携わった立場から見て、

事業戦略の適合性を検証するための研究開発投資に時間をかけることを評価する枠組みの存在が望ましい。

そのためには
人間の生活に幸福と豊かさをもたらす、中長期的な研究開発を可能とするための、
“株主利益優先の短期的思考でない”
しくみ（持続性・改良改善性）

それを可能とするために
経済危機を引き起こした欧米主導の株主至上資本主義でなく、
資本主義のもとで企業が生み出した利益を、
顧客、従業員、協力会社/地域を含めた社会、そして株主へと、
“利益の公平な配分を目指す”
しくみ（公平性）

の構築が急務

国内での構築を踏まえて、日本発信で、世界的に普遍的なものとすることで、
世界も恩恵を享受

日本の土壌

中長期的な視点・公平性を重視する視点は、
日本の土壌として根付いている

近江商人

“三方よし”

住友の事業精神

“自利利他公私一如”

信用を重んじ確実を旨とし、浮利(目先の利益)にはしらず、
公利公益の事業、国家・社会への報恩、
企画の遠大性、事業は人なり、技術の尊重

この土壌を生かし、強みとするしくみを構築

施 策 骨 子

- 日本の強み・良さ ⇒ 「すり合わせ技術」「きめの細かさ」
「相手の立場を尊重し、相互の利益を追求する」
⇒ 強み・良さを生かすビジネスモデルの構築
- コア技術と生産技術の研究開発は日本国内
⇒ グローバル展開のビジネスモデルの構築
- 世界の流れの速さに日本がついて行けていない
⇒ 設備投資促進・人材/人財育成促進
- グローバルな視点で日本の強み・良さを理解し、強化できる人材/人財の育成
⇒ 学校や企業はもちろん、あらゆる階層で育てていく
- 学生も企業人もどんどん海外へ出て
⇒ 世界と日本の違いを肌で感じる

課 題

- 設備投資促進 (補助金/助成金 ⇒ 税制措置)
- 研究開発促進 (補助金/助成金 ⇒ 税制措置)
- 大学の研究成果 ⇒ 事業化 ⇒ 産業化
- 雇用の流動性確保

- 規制改革

- 世界への発信 ⇔ 日本への魅きつけ
 - －国境を越えた協業
 - －国外からの投資呼び込み
 - －留学生受入促進 ⇒ 日本シンパの醸成
- 先進国(欧米中心)と途上国(アジア・太平洋島嶼国・アフリカ・イスラム)との架け橋として主導的役割発揮

⇒ 日本の強み・良さが世界を変える